

2 生活訓練利用者における実車運転評価と神経心理学的検査との関連性について

自立支援局自立訓練部 水谷宣昭 熊倉良雄 四ノ宮美恵子 下山敬寛 島川ななせ

木戸晶子 吉川杏美 関口雄介 和田愛祐美 安部恵理子 林八重

企画・情報部 高次脳機能障害情報・支援センター 今橋久美子

自立支援局長 飯島節

【はじめに】

高次脳機能障害者の自動車運転評価については、実車運転評価がゴールドスタンダードとされている。しかしながら、実車運転評価を実施できる環境は少なく、実車運転評価とスクリーニング的に行える神経心理学的検査との関連性を検討することは当事者と支援者にとって有用な情報となる。今回、高次脳機能障害者の自動車運転評価において、実車運転評価と関連性の高い神経心理学的検査を検討することを目的に、実車運転評価を行った生活訓練利用者 25 名を対象に後ろ向き調査を行った結果を報告する。

【対象】

平成 19 年度から 26 年度の間、自動車運転評価（実車運転評価・C R T 運転適性評価）を実施した生活訓練利用者 46 名のうち、生活訓練利用開始時の神経心理学的検査結果（コース I Q、M M S E、T M T - A ・ B）がある 25 名（平均年齢 37.8 歳、男性 24 名、女性 1 名）を対象とした。疾患の内訳としては、脳血管障害、脳外傷（T B I）、脳腫瘍、脳炎が含まれる。

【方法】

実車運転評価により自動車訓練対象（実車運転評価安定・不安定）と判断された A 群（15 名）、自動車訓練対象外（実車運転評価危険）と判断された B 群（10 名）の 2 群間で、神経心理学的検査および C R T 運転適性評価の結果を比較した。神経心理学的検査としては、コース I Q、M M S E、T M T - A ・ B を用いた。また、C R T 運転適性評価では、反応動作の速さ、適度な精神緊張の維持、動作の確かさ・見込み反応、注意の配分／認知・注意の集中分散、状況処理の巧みさを測定した。

【結果】

t 検定の結果、T M T - A ・ B については A 群が速かった ($p < 0.05$)。また、マン・ホイットニーの U 検定の結果、C R T 運転適性評価のうち、動作の確かさ・見込み反応 ($p < 0.05$)、注意の配分／認知・注意の集中分散 ($p < 0.01$)、状況処理の巧みさ ($p < 0.05$) については A 群が高得点だった。

【考察】

自動車運転には様々な認知機能が必要となる。今回の調査で実車運転評価と神経心理学的検査において注意機能との関連性が示唆された。実車運転評価と関連性の高い神経心理学的検査を検討することは、高次脳機能障害者と支援者にとって有用な情報となるため、実車運転評価と神経心理学的検査との関連性についてさらに検討する必要がある。また、高次脳機能障害者の自動車運転再開プログラムを検討するうえでの基礎データとなることが期待される。